

Special Essay

久留米大学医学図書館の不思議

分子生命科学研究所

児島 将康

図書館は謎に満ちている、特に久留米大学医学図書館は。

昔から図書館は大好きである。小中学校の図書室に始まり、高校・大学の図書館と、それぞれに思い出がある。古くからの人類の知と学問に賭けた執念が詰まっているような厳かな雰囲気と、本や雑誌を探すときの迷宮を探検するような雰囲気が好きだ。

久留米大学に来てからは医学図書館によく行く。もっと図書館らしい建物ならばいいのと思うが、それでも書庫の本や雑誌などを見ていると時間を忘れる。さて、一番お世話になっている医学図書館の不思議を少し。

- 1 , 私は文献を探すときには、教授になっただけでも自分で図書館に出かける。ところが久留米大学に来て5年になるが、不思議な(?) ことに図書館で一度も他の教授に出会ったことがない。そういえば図書館では学生以外に、ドクターや職員にほとんど会ったことがない。最近ではネットで文献を検索・ダウンロードすることが多いからだろうか？
- 2 , 本を借りるときに、背表紙を機械で「ごしごし」やる。あれは一体なんのおまじないなんだろう？(注:盗難防止のためらしい。「ごしごし」やらない本を持ち出すと警報が鳴るらしい。鳴ったのを聞いたことはないが...。)
- 3 , 一階の書庫には古い学術雑誌がたくさんあるが、そのなかにイギリスの科学雑誌 Nature の、なんと創刊号から全部ある！本物なのだろうか？ さすがに創刊130年を超えた老舗雑誌である、圧倒的な存在感がある。
- 4 , 書庫の階段の急なこと！ギネスブックものである。あまりに急なためにゆっくり上り下りするからだろうか、不思議と誰かが落ちたのを見たことがない。またエレベーターに乗ったことがある人にはわかるだろうが、あの「ガッコン」といって動き始めるエレベーターに最初に乗ったときには、大丈夫だろうかと思った。でも、落ちたことがない。学生諸君、縁起をかついで試験前には図書館で勉強してはどうだろうか。

5, 書庫の棚の横から飛び出ている分類の鉄板(なんでこんなところに?)に頭をぶつけて、書庫の床にかがみ込んだのは私だけだろうか?

6, 夏の書庫は暑い。とんでもなく暑い。特に上の階に行くほど暑い。気温40度は超えているのでは? 本は大丈夫?

7, 書庫の最上階の棚には、なぜか「サザエさん」の全集があり、私の密かな楽しみになっている。

そんな医学図書館が私は大好きです。

